



TITLE:

天界雜報

AUTHOR(S):

CITATION:

天界雜報. 天界 1931, 11(127): 494-494

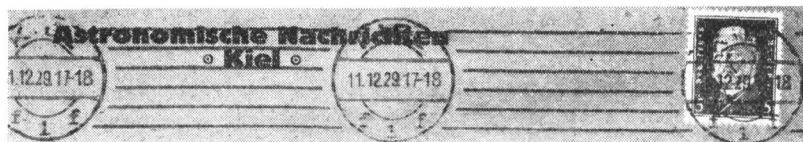
ISSUE DATE:

1931-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161726>

RIGHT:



天 界 雜 報

ロリエル天文臺に於ける冥王星観測寫眞

冥王星発見の本家ロリエル天文臺の報告によると、昨1930年始めて冥王星を見つけた寫眞は、一月23日と同29日との寫眞を比較研究して成功したのであるが、望遠鏡は勿論ロリレンス・ロリエル寫眞儀で、口径13吋、焦點距離66吋である。見つけた日は二月18日であつた。斯うした研究は、同天文臺で1905年以來やつてゐる仕事の連続である。

発見後は、42吋反射鏡で出来るだけ毎夜観測が行はれてゐる。

古い寫眞板研究の結果、ロリエルで、1915年に撮られた下の二枚の寫眞の中に冥王星の像が見つけられた。

日附と時刻(U.T.)	赤經(1915.0)	赤緯(1915.0)
1915年三月19日6時20分	6 ^h 1 ^m 29.54 ^s	+18° 4' 40.6''
四月 7日4時01分	6 ^h 1 ^m 54.05 ^s	+18 7' 54.0''

東京の蓮沼左千男氏逝去す

東京三鷹天文臺の蓮沼技師が去る九月11日病死せられた。謹んで弔意を表す。

尚ほ、同天文臺では、さきに木下國助、白石通義兩氏が逝去せられた。誠に不思議なことにも、上記の三氏は、揃ひも揃つて、1929年五月の皆既日食を南洋マレー半島へ観測に行かれた人々である。只其の一行の統率者であつた早乙女教授だけが壯健でゐられるのは、喜ばしい